

第3回検討会で出た主な意見

資料3

テーマ	意見
人材の確保について	自主事業を増やすことで交付金割合のウェイトを下げた場合、予算とスタッフが変わらない中で新たな自主事業が出来るか心配
	業務が増えていく中で、ヒト、モノ、カネと経理ソースが減っていくことは問題である。
	資料も今の議論も事業主サイドから人材確保を考えているが、今後は、働いている側の視点をいれないと継続して働ける職場づくりにつながらない。
プラットフォームについて	地域の中での問題、担うべき役割等を話す場（プラットフォーム）を作ることにお金を出し、自主事業が出来るようデザインしていけばよい。
	プラットフォームは、地域に作った際に、介護保険の事業計画や自治体の計画作りにも発言する役割を担って欲しい。
	プラットフォームのオーソライズかが重要である。地域の中の介護をどう考えるのか人材確保をどうするのかの場を持つことを何らかオーソライズする必要がある。
	センターだからこそできるプラットフォームを作り、それをオーソライズすることで、そのプラットフォームでしかできないものを見極めていくというステップを踏むことが大切である。
	プラットフォームは、地域の介護労働市場をどうするかを語る場とする。センターの今後の事業を考える場では、他の団体の参加の意欲がなくなる。
	プラットフォームの役割の中には、安心して働ける環境作りもある。介護労働者もプラットフォームに積極的に関わっていくべき。プラットフォームでは働く人の役割が重要な役割を果たす。
中間報告骨子案について	プラットフォームの創設が骨子に盛り込まれていないので項目だてて欲しい
	調査研究を骨子のどこかに位置づける必要がある。「稼ぐ」話である自主事業を先に持ってくるべき。
	「人材の発掘」には「定着」付け加え、「人材の発掘・定着」とする。
ステークホルダーの図について	介護労働者はこの図の中でどのように関わるのか。介護労働者がセンターと関わりを持っていることを明示的にした方がよい。